

平成 31 年度春期 情報セキュリティマネジメント試験 分析資料

株式会社ウイネット

平成 31 年度春期情報セキュリティマネジメント試験が 4 月 21 日（日）に実施されました。

この度弊社では、弊社教材外部ライティングスタッフの皆様から、本試験出題内容に関するご意見を聴取させていただき、整理及び分析を行いました。今後のご参考として、今回の本試験分析をご報告させていただきます。

<午前問題>

1. 分野別出題数

	分野	H31 春	H30 秋	H30 春	H29 秋	H29 春	H28 秋
1	テクノロジー系	33	33	34	33	33	33
2	マネジメント系	7	8	7	8	8	8
3	ストラテジ系	10	9	9	9	9	9
	合計	50	50	50	50	50	50

- (1) 前回と比較して、出題数が増えた分野は、“ストラテジ系（+1 問）”でした。
- (2) 前回と比較して、出題数が減った分野は、“マネジメント系（-1 問）”でした。

2. 中分類別出題数

	中分類	H31 春	H30 秋	H30 春	H29 秋	H29 春	H28 秋
1	セキュリティ	30	30	30	30	30	30
2	法務	6	5	6	6	5	6
3	システム構成要素	1	1	2	1	1	1
4	データベース	1	1	1	1	1	1
5	ネットワーク	1	1	1	1	1	1
6	プロジェクトマネジメント	1	1	1	1	1	1
7	サービスマネジメント	2	3	1	3	3	3
8	システム監査	4	4	5	4	4	4
9	システム戦略	2	2	1	1	2	1
10	システム企画	1	1	1	1	1	1
11	企業活動	1	1	1	1	1	1
	合計	50	50	50	50	50	50

- (1) 前回と比較して、出題数が増えた中分類は、“法務（+1 問）”でした。
- (2) 前回と比較して、出題数が減った中分類は、“サービスマネジメント（-1 問）”でした。
- (3) 前回と同様に、計算問題の出題は 1 問もありませんでした。

3. 平成 31 年度春期基本情報技術者試験（試験開始時刻が同じ）と同一の問題の出題

中分類	問	テーマ	基本情報技術者試験
セキュリティ	問 5	リスクファイナンス	問 40
	問 6	リスクレベル	問 41
	問 26	メッセージ認証符号	問 38
	問 27	楕円曲線暗号	問 39
	問 30	ハニーポット	問 44
法務	問 35	著作権人格権	問 79
システム監査	問 37	外観上の独立性	問 59
企業活動	問 50	グリーン購入	問 75

4. 情報セキュリティマネジメント試験の過去問題と同一（非常に類似含む）の問題の出題

中分類	問	テーマ	過去問題
セキュリティ	問 2	CSIRT	H29 秋問 3
	問 3	CRYPTREC	H29 秋問 4
	問 4	サポートユーティリティ	H29 秋問 12
	問 7	アカウントビリティ及び権限	H29 秋問 8
	問 25	データベースのアカウント	H29 秋問 25
法務	問 33	広告宣伝メール	H29 秋問 32
サービスマネジメント	問 41	インシデント	H28 秋問 42
システム戦略	問 47	BPO	H28 秋問 48

5. 基本情報技術者試験の過去問題と同一（非常に類似含む）の問題の出題

中分類	問	テーマ	過去問題
セキュリティ	問 10	DNS キャッシュポイズニング	H29 秋問 37
	問 12	アクセス権	H27 春問 44
	問 16	パスワードリスト攻撃	H28 秋問 44
	問 19	TCP ポート番号 80	H28 秋問 45
	問 26	メッセージ認証符号	H28 秋問 38
法務	問 36	企業と労働者の関係	H29 秋問 79
システム監査	問 37	外観上の独立性	H27 秋問 59
システム構成要素	問 44	クライアントサーバシステム	H21 秋問 14
システム戦略	問 48	投資額、回収期間と年間利益	H28 秋問 62
システム企画	問 49	RFP	H28 秋問 66
企業活動	問 50	グリーン購入	H27 春問 75

注記：問 26、問 37、問 50 は、“3. 平成 31 年度春期基本…”の表中と重複します（平成 31 年度春期基本情報技術者試験と平成 30 年度秋期以前の試験の両方で出題されています）。

6. 今後の指導方法

- (1) シラバスに記載されている用語例を完全にマスタすることが最も重要です。
- (2) 情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験の過去問題から多く出題されることから、過去問題の演習は効果的でしょう。

<午後問題>

1. 出題概要

情報セキュリティマネジメント試験（以下、SG 試験という）の午後問題について、出題ページ数は、前回に比べて、問1は1ページ減って13ページ、問2は4ページ増えて14ページ、問3は1ページ増えて12ページとなっています。全体で4ページ増えましたが、文章量は前回と同等レベルだったといえます。設問の数も前回と同程度でした。また、今回の問題を問ごとに見ても設問数はほぼ分量で、難易度にも大きな差はなかったため、問題間で解答時間に長短が生じることはなく、前回のように解答の順番が合否に影響するようなことはなかったと考えます。

また、今回もIPAから発表されている午後の出題範囲に沿って、「情報セキュリティマネジメントの計画、情報セキュリティ要求事項」及び「情報セキュリティマネジメントの運用・継続的改善」に関連した内容で出題されましたが、情報セキュリティの教育・訓練や運用状況の点検など、「情報セキュリティマネジメントの運用・継続的改善」に関連した内容の出題が多くありました。

問1「サイバー攻撃を想定した演習」では、演習の計画、演習の実施、演習結果の振り返り、演習結果の報告などが出題されました。

問2「企業における情報セキュリティ管理」では、販路拡大のための施策としてのSNSの利用に関する情報セキュリティ対策、オンラインショッピングサイトの利用に関する利用権限の設定などが出題されました。

問3「情報セキュリティの自己点検」では、自己点検の規程及びチェック項目、個人所有のスマートフォンの業務利用、チェック項目の見直しなどが出題されました。

技術的な要素の出題内容では、デジタルフォレンジックス、PCI DSS、CVSS v3による脆弱性評価などが出題されました。

難易度は、前回同様、初回から徐々に引き上げられている傾向は和らいでいるようです。

2. 出題テーマ及び難易度 【難易度 5：高い、4：やや高い、3：並み(普通)、2：やや低い、1：低い】

	出題テーマ・要求される技能	難易度	出題形式・出題数	配分時間 ・配点
問1	サイバー攻撃を想定した演習 (13 ページ) ・情報セキュリティリスクアセスメント及びリスク対応 (リスク分析) ・情報セキュリティの意識向上 (情報セキュリティの教育・訓練、情報セキュリティに関するアドバイス)	3	設問 1(1) 空欄選択 設問 1(2) 選択・組合せ 設問 1(3) 空欄選択×2 設問 2(1) 選択 設問 2(2)～(4) 選択・組合せ 設問 3(1)、(2) 空欄選択×2 設問 4 選択	30 分程度 34 点
問2	企業における情報セキュリティ管理 (14 ページ) ・情報資産管理の計画 (資産の見直し) ・情報セキュリティリスクアセスメント及びリスク対応 (リスク特定・分析・評価、リスク対応策の検討) ・部門の情報システム利用時の情報セキュリティの確保 (利用者のアクセス管理)	3	設問 1 選択・組合せ 設問 2(1) 選択・組合せ 設問 2(2) 空欄選択 設問 2(3) 選択 設問 3(1)～(4) 空欄選択×3 設問 4(1)、(2) 空欄選択×2	30 分程度 34 点
問3	情報セキュリティの自己点検 (12 ページ) ・情報セキュリティリスクアセスメント及びリスク対応 (リスク特定・分析・評価) ・部門の情報システム利用時の情報セキュリティの確保 (運用状況の点検)	3	設問 1 選択・組合せ 設問 2(1) 空欄選択×3 設問 2(2) 選択・組合せ 設問 3(1)、(2) 空欄選択 設問 3(3) 空欄選択×3 設問 3(4) 空欄選択 設問 4 選択・組合せ 設問 5 選択・組合せ 設問 6(1)、(2) 選択・組合せ	30 分程度 34 点

注記1 得点の上限は3問合わせて100点として、合計60点以上を午後の試験の合格点とする。

注記2 配分時間は、受験者あるいは指導者が受験対策で想定している1問当たりの解法時間を示す。

3. 出題傾向及び問題別分析

□ 問 1 【必須問題】 サイバー攻撃を想定した演習

企業においてサイバー攻撃の被害が増えており、従業員にはサイバー攻撃を受けたときの適切な対応能力が求められています。攻撃を完全に防ぐことは難しいため、対応能力向上のための定期的な演習が欠かせないものとなっています。

問 1 では、事業の拡大が進行中の部署の情報セキュリティリーダーが、サイバー攻撃を受けた競合他社がその対応に手間取って大きな損害が発生したというニュースを聞いたことから、自社でも演習を行ったことを題材にしています。

具体的な出題内容は、計画段階で行う演習の種類やサイバー攻撃のシナリオの整理、ワークショップによる演習の実施、参加者からの具体的な対策例や対応に関する質問への回答、定期的な演習の提案を含む結果報告などについて問います。

問題単体のボリュームとしては前回よりも 1 ページ減少しましたが、各設問で問われている内容は基本的なものが多く、配分時間内で効率よく整理し読解することで正答が得られたと予想します。

□ 問 2 【必須問題】 企業における情報セキュリティ管理

費用をかけずに容易に情報が発信でき、高い効果が得られるという理由から、広告・販売などに SNS を利用する企業も増えていきます。ただし、SNS は不適切な利用方法により信用低下につながる場合も多いため、その利用については十分な注意が必要です。

問 2 では、ISMS の活動をベースに、販路拡大のための施策として、個人向け通信販売を行うためのオンラインショッピングサイトの利用や SNS による情報提供を検討し、全社的な対策を立案することを主なテーマとしています。

具体的な出題内容は、SNS を利用した情報提供に起因するリスクの考察、SNS 利用に関するルールとなる従業員向けの指針の内容、オンラインショッピングサイトを利用する場合のアカウント管理などについて問います。

問題単体のボリュームとしては前回よりも 4 ページ増加しましたが、各設問で問われている内容は比較的平易であったため、配分時間内で効率よく整理し読解することで正答が得られたと予想します。

□ 問 3 【必須問題】 情報セキュリティの自己点検

全従業員を対象に、自己点検規程を定め、定期的に自己点検を行っていても、その実施が有効に働かず、事故の発生につながる場合があります。情報セキュリティの確保が適切に行われているかを定期的に確認し、評価することで、情報セキュリティを維持することが重要です。

問 3 では、自己点検と個人所有のスマートフォンの業務利用を題材に、自己点検のチェック項目の見直しや契約先から導入要請のあったアプリを個人所有のスマートフォンで利用することを検討します。

具体的な出題内容は、自己点検規程や内部監査規程の内容、使用ソフトの脆弱性評価の方法、チェック項目の見直し、個人所有のスマートフォンの業務利用及びアプリ利用に関する情報セキュリティリスクアセスメントなどについて問います。

問題単体のボリュームとしては前回よりも 1 ページ増加しましたが、各設問で問われている内容は比較的平易であったため、配分時間内で効率よく整理し読解することで正答が得られたと予想します。

4. 午後問題の講評

全体的な難易度としては、基本情報技術者試験の午後問題対策を行っている受験者であれば、文章をよく読むことにより解答できる平易な問題が多く、時間配分さえしっかり管理できれば午後試験の合格点に到達できたのではないかと予想します。ただし、毎回のことながら文章量は多く、長文問題が苦手な受験者にとっては、今回も苦戦したことと思います。過去問題を解き、長文問題に慣れることも有効な試験対策といえます。

前回同様、問題の難易度アップ及びボリュームアップが和らぎつつあり、全体的に落ち着いてきていると考えます。このまま次回以降に継続されるとは限りませんが、引き続き注視するとともに、この SG 試験の継続的な実施にあたり受験者数の増加に期待したいところです。